

## 2009 年度北海道サケネットワーク総会議事録 (2009.10.31. 13:30～ 於 さけ科学館)

木村:忙しいなか総会に集まっていたいただいた方々へ感謝する。2009 年度の総会の開催に先立ち、3 月に亡くなった太田副代表のサケに対する強い思い、とち帯広サケの会作り、市民活動等々、ご活躍を偲んで黙祷したい。御唱和を願う。

### 【代表の挨拶】

浦野:太田氏が亡くなったことは大きな痛手である。しかし、とち帯広サケの会は千葉さん、伊藤さんらが牽引してくれるはず。益々発展してほしい。

先日ある女性研究者が、海のと真ん中で CO<sub>2</sub> が上昇し pH が酸性化している等、海洋環境が悪化していることを紹介していた。サケは高温や酸性化に敏感。20-30 年後まで健全な状態、多様性を保たせることができるか。「サケ、多様化」をキーワードに、天然産卵を守る、増やすことを目的とした石狩川の取り組みを象徴として広める必要がある。

北海道にはサケのことを知らない人が多い。サケは秋に食卓に上がるものとの認識しかなく、ベーリング海まで大回遊していることを知らない人も多い。サケネットワークのホームページを、一般の人が楽しく見られるものになりたい。豊平川さけ科学館、千歳サケのふるさと館、標津サーモン科学館の地道な活動も大事であり、ネットワークを通じて多くの人に知ってもらいたい。そのためにもネットワークを充実させ、ネットワークらしくするために協力をお願いします。

### 【議長の選出】

浦野:サケネットワークの事情を把握している木村事務局長に進行をお願いしたいが如何か。(拍手で承認)

### 【議事】

#### 《活動報告》

木村:2009 年度の活動報告は資料の 2 頁。予算総額 5 万円では大きな活動は望めないが、サケについて考え多くの人と情報交換することがネットワークの本趣であることから、6 月に会報を発行、間欠的にニュースレターの発行を行った。

また、石狩川本流にサケを増やす活動の一環として、浦野代表と寺島氏とともに花園頭首工を視察、また溯上障害視察検討会に参加した。この活動は「自然を守る会」の努力が元になっている。旭川までサケを帰すには深川の頭首工が問題であり、障害があれば改善を要望する。ネットワークとしても陰ながら応援し、道民の理解を広めたい。

#### 《会計報告》

前鼻:2008 年度会計報告は資料の 3 頁(表のとおりに報告)。会費の-9000 円は、未収入団体があつたのと、1 団体が 2 年分を既に納入済みであることによる。主な支出は通信費と会議費。今年は帯広で総会打ち合わせをしたため、予備費を当てた。監査からも承認を得ている。

## 《監査報告》

**石黒:** 平成 20 年 1 月 1 日～12 月 31 日までの会務ならびに会計の収支決算書について、適正に執行・処理されていた。

**議長:** 活動報告, 会計報告, 監査報告の一括質疑を。 (報告を一括承認)

**議長:** 会員の活動報告, 話題提供を。

## 《会員報告》

**川村(北海道立水産孵化場):** 久しぶりの参加である。一番の話題は、回帰量予測が外れたこと。ニュースレターにも書いたが、年齢査定の結果、昨年の 3, 4 歳魚が大変少なかったため、このような結果になった。予測の目的は人工再生産用親魚を確保することにあるが、現場の協力で卵の確保はできそう。今年の外れは浜にとっては良かった。しかし、予測手法の改善が必要。

子供たちへの活動を通じて感じることだが、最近の子供は川へ出られない現状にある。これからの日本にとって大変なこと。たくさんの命をもらって生きるのが人。サケもたくさんの命が絡む命の輪である。1 g で放流した魚が 3000-4000 g になって帰る。これからは野生魚の復活に期待する。命を伝えるのにサケは良い素材。生まれた川に帰る、海から陸へ栄養を運ぶ、様々な命を繋ぐ、喰う・喰われる関係等。サケネットワークが情報発信の拠点になってほしい。

**石黒(さけますセンター):** トピックとしては、千歳川上流のサンクチュアリ化と石狩川上流へサケを溯上させる事業。これらの活動は、さけますセンターがサケネットワークを通じて皆さんと近づけたことが大きな力となっている。これからも協力できることは協力したい。

その他、さけますセンターでは文科省の施策の一環として科学技術振興機構が実施しているサイエンスキャンプに協力している。このキャンプでは、生物の好きな全国の高校生を集め、千歳の事業所で実施している。今年で 2 回目。来春も予定。ひとつの活動として紹介する。

**岡本(豊平川さけ科学館):** 手稲の濁川、住民が綺麗にしている澄んだ小さい川であるが、サケのまとまった回帰があり、市民観察会を実施。産卵行動を確認。地域の小さい川にサケ、サクラマスが帰ってくると、身近に感じられる度合いが増す。身近な小さい川を大事にすることが大事。

**永本(札幌市環境局みどりの推進部):** 初めての参加である。さけ科学館の管理運営をしている。H18 年度から指定管理者制度を開始。管理者を公募している。4 年前は 4 社が応募。今回は緑化協会のみが応募。H22 年以降も現在の管理体制。しかし、科学館は存廃問題が浮上。外部有識者から、維持するだけでなく、在り方を検討する旨の指摘がある。市としては、今後 2 年間で科学館をどうするかについて検討する。

**矢留(札幌市立東白石小学校):** 活動はカムバックサーモン運動に遡る。11 月 13 日に科学館と協力して行う子供たちによる「サケ受精式」は 30 年目に入る。OB 会である東白石会でも話題はサケのこと。今後は協賛の話もある。4 月下旬に諸機関へ声をかけ、PR する予定。

**千葉(とちぎ帯広サケの会):** 5 月に小学生を対象とした「命の循環」を伝える紙芝居(12 年前

に作成)を実施。1 時間の話を私語なく聴いてもらえた。幼稚園では卵を飼い、稚魚を卒園記念に、親がいなくても育てて帰ることを教える。放流式後の子供の感想は、魚も初めは泳ぐのが下手。しかし、4 年後には立派になって帰って来るサケってすごい。共感した。

8 月の歩行者天国では、活性化事業のなかで、サケの会として「サケちゃんちゃん焼き(300 円/皿)」を販売。十勝大豆の自家製味噌使用。大好評。

10 月 18 日に例年どおり親ザケの放流。昨年は輸送に失敗し、多くを死なせてしまった。警察立会いの下、取り上げてクリーニングセンターで処理。今年は事業協会の協力で、無事に放流。稲田小学校、住民 80 名ほどが参加し、サケが溯上する姿を観た。思い遣りをもって接することを誓う。

11 月 7 日に、ふるさと公園が完成予定。来年の 5 月に、帯広市民と稚魚放流を予定。

**寺島(大雪と石狩の自然を守る会)**:旭川の最大の関心事は 50 万尾のサケ稚魚放流。3 月 29 日に 25 万尾ずつ 2ヶ所に放流。4 月 30 日に厚田沖で 2 尾の放流魚を捕獲。奇跡に近い。市民大喜び。秋にはサケの産卵床を確認。サケの問題に取り組んで 30 年になるが、今年は市民、マスコミ、市、動物園の反応が違う。大きな力になりそう。

**山田(大雪と石狩の自然を守る会)**:旭川では一昨年に 1-2 個、昨年は 0 個の産卵床を確認。市民はサケを観る機会がほとんどない。今年は川の調査でサケの死骸を発見。新聞にも出た。忠別川の取水堰付近で 3 箇所産卵床を確認。これまで魚は確認していたが、産卵床の確認は初めて。今年の放流魚が帰る前に現状把握をするつもりで調査したところ、新たに 2ヶ所を発見。情報発信も大事。今年はサケの溯上が例年より早い。サクラマスの溯上が終わるとともにサケを発見。

**高畑(北海道サーモン協会)**:(報告資料に基づき諸活動を報告)4 月の稚魚放流式、8 月の夏休み親子サケ教室、9 月の札幌サケフェスタ参加、第 5 回公開市民講座、10 月のサーモンロードふれあいツアー、豊平川河畔清掃とサケ捕獲観察等。サケ捕獲観察ではサケ科学館の岡本館長に解説をお願いした。

カナダとの交流活動は、インフルエンザ発生のため延期。

サーモン協会のイメージキャラクター(かじ さやか作)を作成。サケの教育と啓発に利用。

紙芝居を作成予定。

**竹田(丸水札幌中央水産)**:中央卸売市場で食育を行っている。年々日本人が魚離れ。加工品へ移行。魚食普及委員会として魚食の活発化に協力。年 50 回ほど、女子大を中心に魚の調理方法の講習会を実施。私の担当はサケであるが、残念ながら消費者の嗜好が国内産から国外産へ。北海道産を食べてほしい。今後も協力したい。

**木村(北海道サーモン協会)**:大まかな数字であるが、サケの消費量は 50 万トン。国内生産が 30 万トンで輸入が 30 万トン。国内生産の 10 万トンを輸出。日本人は安全な国内産サケを輸出して、薬漬けの輸入サケを食べている。

**木原(佐藤水産)**:サケの加工販売を行っている。昨日、供養際を行った。全社員でサケに感謝。最近の商品に、東京農大と共同開発したサケの醤油がある。生臭みが無く、こくがある。

る。魚だけのラーメンスープ。サケの命をいただいて、加工品を全国へ広げる。

**山道(日本釣振興会北海道地区支部):**サケの不良予測は波紋あり。マスコミが釣の自粛を訴え、釣用具の売り上げが減った。来年はもっと釣って良いとの予測をお願いする。

釣り団体が他団体と連携した活動に、サケ、サクラマス発眼卵の埋没放流、豊平川のサケ観察と清掃活動、来年は川の中の清掃も予定、シニアを対象にした釣りの振興、豊頃町と大津でサケ釣り教室、に取り組み、経済的波及効果を狙っている。電動リールのレンタルが好評。

#### 《2010 年度活動計画》

**木村:**具体的な活動は描き難い。情報交換が主体であるから、これまでに会報とニュースレター10号までを発行。来年はより充実させたいが、情報提供不足が課題。名指しでお願いするかもしれない。会報4号を予定している。予算の面からメールで配信しているのが実態。今後も浦野代表に力添えをお願いする。また、迅速性と予算の面からメールを利用しているが、送っても見えていない場合がある。事務局として連絡体制を整備し、連絡漏れがないようにする。

サケを「北海道の魚」にする活動は壁が厚い。行政は業界の要望があれば動くといっているが、産業的にはホタテやホッケ等の方が価値が上で、サケは優先されない。運動としては頓挫している状況で、日常の活動のなかで取り組んでいく。

石狩川自然産卵事業へネットワークとして支援。

豊平川さけ科学館が存続の危機にある。札幌にサケを扱う科学館が無くてどうする。ネットワークとして支援。

質疑に移る。

**山田:**さけ科学館の存続とは、どんな状況か。

**木村:**議題の「その他」で話し合う予定であるが、札幌市から説明があったように、今後2年間で館の進め方を検討する予定。存続を希望する市民が署名を集める動きがある。

**議長:** 活動方針についての質疑を。 (承認)

#### 《2010 年度収支計画》

**前鼻:**2009年度、2010年度会計関係。1月～12月の会計に対し、総会が11月なので、会計が済んでいない状態での報告になる。繰越額に誤りがあり、修正をお願い。予備費は連絡、出張費に当てる予定。

**木村:**会計年度と総会の時期にずれがあるため、総会での承認は昨年度までの決算について、になる。改善策があれば提案願いたい。

(改善策は特になく会計予算案を承認)

#### 《役員選出》

**議長:** 副会長の太田氏の死去にともない、一名が欠員。選出方法に提案はあるか。事務局案では、千葉氏にお願いしたい。

(異議無く、千葉氏を選出)

千葉: 重責に堪えられるかわからぬが、やらせていただく。

議長: 役割分担について、関係者が別室で協議する。

副代表の後任を寺島さん、委員を千葉さんをお願いしたい。 (承認)

《その他》

木村: さけ科学館の存続について、現在、札幌市が諸機関の統廃合を行っているが、さけ科学館も対象。一部で既に存続の署名活動が始まっている。サケを通じて子供たちに命、食、文化・・・を伝えるために、さけ科学館は貴重な存在。残すべきと考えるが。考えがまとまればネットワークとして行動を起し、市長に意見を伝えたい。

川村: 存続に異議は無い。さけ科学館だけでなく千歳のふるさと館も同じであるが、外部を説得するためには数値が必要。来館者数が何人で、これからどのように変わろうとしているのかを伝えるべき。サケだけでは生き残れない。観光等との有機的な繋がりが必要。変化を発信しないと通らない。科学館で何ができるか、ネットワークも知恵を出す必要あり。

山田: これまで旭川ではサケ稚魚の放流が主体であったが、今後はサケの自然産卵をどうするかについて取り組んでいる。この点で、有賀さん等科学館の方には指導をお願いしている。札幌だけで考えず、広域な活動も考えては如何か。

浦野: サケは北海道のアイヌのみならず北日本の食文化である。人間の生活、サケのサイエンス、地域環境との関係等、北海道が発信する文化の中心となることが巷に広がるよう、しっかりとした情報発信源としての存在意義を伝える。サケネットワークの情報とリンク。

木村: 意見を取りまとめて市長宛に意見を出したい。年内に代表を始め、集まれる人が集まって意見交換をしたい。

千葉: 「川狩」、十勝の言葉だと思っているが、明治からある。食文化、タンパク質循環の象徴がサケである。

木村: アイヌとサケの問題も科学館でなければできない。それらも含めて市長に訴えたい。訴える際に、メンバーから外してほしい方はいるか。

永本: みどりの推進部であるが、ネットワークへは特別会員として参加しているし、隠し立てする必要は無い。

議長: 素案ができたなら皆さんに見てもらい、確認後提出する。

今年度の総会を終了。協力に感謝。(拍手)

この後、サケ会議を開催。

事務局: 会費納入をお願いする。